
今日も彼女は不機嫌

†七瀬†

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日も彼女は不機嫌

【Nコード】

N8110C

【作者名】

十七瀬+

【あらすじ】

2007年から共学になった私立百合華学院高校の優等生”桜木桃”（高校1年生）は、可愛くて、頭が良く、料理もできる、優秀な子。しかし、そんな彼女には表裏がある二面性の持ち主だった！
？

FILE 1：主人公は腹黒いお姫様♪

只今、5月半ば。

寒くも無く、暑くもない・・・

あ！こんにちは皆さん。

私は、”桜木 桃”。一様、百合華学院高校の

優等生です（普通・・・自分で言うか・・・汗）

・・・いきなりですが、大問題発生！？

百合華学院は、女子高なのですが・・・

今年から共学になってしまったのです。

向かい側の男子校と・・・

え？たかが共学ですって！？

私にとってはこの世の大問題なんです！！

だって私は・・・

男子が大の苦手なんですもの（泣）

そのことを知ったのは、去年の12月・・・

私は、中等部で生徒会会長をしていました。

ーッバンー

机を叩く音が生徒会室中に響いた。

桜木『え！？山本先生！

来年から高等部は共学になるって本当ですか！？』

と、驚く私に山本先生は、笑顔で・・・。

山本先生『そうよ。男子が来るのよ

良かったじゃない！恋できるし♪

じゃあ、全校集会でスピーチよろしくね』

・・・

そして・・・中学は卒業し、高校に入学。

勿論、入学式では男子と一緒に・・・

私は、嫌で嫌で仕方が無かったのです。

授業中でも、男子は、だら〜っとしてて

時には授業にならない事だってあります。

だから、男子は嫌なのです・・・。

昼食中では・・・。

私は、よく友達の名”瑠璃”・”亜美”と一緒にご飯を食べています。

瑠璃『今日も色取りいいお弁当だね』

亜美『本当！頭はいいし、素直だし、

料理も作れる・・・。すごいよお』

桃『すごくないよお。

みんなのだって美味しそうなお弁当じゃない』

・・・そんな尊敬される私にも

皆に言えない秘密があるんです・・・

それはというと・・・。

男子A『あ、桜木さんのお弁当可愛い』

男子B『自分で作ってるらしいよ。』

男子C『マジで！作ってもらいてえ〜』

彼らは、ひそひそ話して私には聞こえてないように

思っているが・・・。

（俺には、まる聞こえだっつーの！

つーか、てめえー等、好き勝手言いやがって

俺は、お前達の者じゃねえーんだよ！？

はぁ・・・マジぶん殴りてえ・・・。）

・・・私の本性→がこんなのだって事を・・・。

以外にも私は、人気者でもあった。

きつと、皆から見た私の印象は・・・

”優しい”・”可愛い”（え・・・）・”頭いい”

だろう・・・。

（つーか！人の印象作ってんじゃ

ねーよ！！マジウゼエー！

つま、皆には言えねーけどな。

FILE 2：出会いは、階段から

放課後。

私は、夏川先生（【46】世界史教師）

から職員室に呼び出された。

私は、先生方のお気に入りだから

良く職員室に行ったもりする。

なので、呼び出された理由だつてすぐ分かる。

（はあゝまたかよ・・・面倒くせえー

きつと、ノートを社会科室にもって行くだけだろう・・・。

んな事自分でやれよ。）

私の予想は的中した。

夏川先生『本当にごめんなさい。

これ（ノート）を社会科室に願いいいかしらう。』

桃『はい！わかりました。

先生のお役に立てて光荣です』

私は笑顔で言った。

（はぁ？悪いと思ってるなら

こんなこと生徒に頼むんじゃないよ

っ！か、今日は、ノートの量が多すぎ！！ウザイ！）

そう思いながら階段を降りた。

っと！その時・・・。

―ガクッ―

桃『つきや！？』

私は、足を踏み外し階段から落ちた。

―ドタタタタッ―

（い・・・たくない！？）

??『あの・・・大丈夫ですか？』

青年の声・・・。あれ？と思い目を開けた。

桃『あああ！？！、ごめんなさい』

階段から落ちても痛くないのは

彼が、私の下にいたからだ。

すぐに、私は退いた。

桃『あ．．あの．．本郷君．．ですよ．．．？』

本当にごめんなさい．．．。

深く頭を下げた。

彼の名前は、本郷翔大。私と同じクラスで

成績は、学年第2位。（時には、1位）

彼は、身体を起こして、落ちているノートを拾いながら

本郷『僕は、大丈夫だよ。』

でも、桜木さんも大変なんだね．．．。毎回先生からの

頼み事を引き受けるなんて。はい、これで全部だね？』

そして、拾ってくれたノートを私に渡し立ち上がった。

本郷『ッ痛．．。』

——ッバタ——

（え！？）

桃『ほ、本郷君大丈夫！？』

本郷『ちよつと足を軽くひねっちゃったみたい

すぐ治るから気にしないで、それより

早くお仕事片付けたほうがいいよ。僕も、

教室で終わらせないといけない事あるから』

そう言つて苦笑いしながら、ヨロヨロ歩いていく本郷。

私は、言われたとおり。すぐに仕事を片付けた。

急いで教室に戻った。

（面倒な事になっちまったよ。。。）

—ガラガラガラ—

本郷『あ、桜木さん。仕事終わったの？』

桃『うん、終わったよ。本郷君の方はどお？』

本郷『今、終わったよ。これから帰るところ』

ニコつと笑顔を見せる本郷。

—ッポ—

(ツポっじゃねーよ俺!!)

確かに奴は、可愛いと思うけど・・・あ!?)

桃『そういえば!?!足!?!

すぐそこに接骨院あるから行こうよ!』

彼は、首を横に振りながら。

本郷『いいよ、大丈夫だから。

っさ、帰ろうか』

私達は、いたって普通の会話を

しながら歩いて帰った。

FILE 3：今日の学校（午前編）

次の日。

キン・コーン・カーン・コーン（3時間目終わりのチャイム）

――4時間目の授業の教室移動の時――

瑠璃「次は、数Aだよ――」

やる気ない（泣）。。」

亜美「まあ――頑張ろうよ。っさ、3階に行こう！」

桃・瑠璃「うん、OK」

私達は、カバンを持って教室を出た。

その時、ある他のクラス的女子が本郷に話しかけている

所を目にした。

女子A「あ・・・あのー！帰りちよっとお時間よろしいでしょうか？」

本郷「うん、いいよ」

（・・・あー告白ねえー本郷も大変じゃん（苦笑）

つま、俺には関係ないか)

――4時間目(数A)――

クラスを見回すと・・・。

(大体の人。寝てるし。(汗)

つま、俺も、寝てえーけど・・・寝れねえー

今の、イメージ崩されちゃ大変だから♪)

そんな中、私の隣の席の人も、真剣に

授業を受けている。

桃「・・・・。」

本郷「どうしたの？俺の顔に何かついてる？」

進んでいたペンが止まり、彼は、問いかけてきた。

桃「あ、いや、ごめんね。大部分の人が寝ている中、

本郷君も集中して勉強してるなあゝって思っちゃって(笑)」

本郷「まあ僕も寝たいけどね(苦笑)

でも、授業態度で、マイナスにしたくないから(笑)」

桃「ですよねぇ」

彼は、またペンに視線を戻した。

（確かに、授業態度は、引かれたくねぇな）

そう思いながら本心ウザそうに、でも、表情は豊かに

かつたるい数Aの授業を受けた。

FILE 4：現場

―時は経って、掃除の時間―

只今、教室掃除のゴミ捨てに行ってます（怒）

（たつく。。面倒くせえー）（怒）早よう終わらせよ

我が高校のゴミ捨て場は、体育館の裏側をちょっと行くとある。

流石に3階からは、大変だ・・・。

（ジャンケンに負けた俺が悪いよなあ・・・。）

そう自分とゴミを責めつつ、

体育館裏に到着（怒）

（！？）

私は、前に歩こうとした足を無理やり止め、

すぐ隣にあった大きい木々に隠れ身を潜めた。

（はあ？何故、俺が隠れてるかって？）

別に宇宙人がいるとかだったら通れるけどよ・・・。

あの

普通に”告白現場”をスルーして通れる自信はないな・・・。

（良く見りゃ、さっきの女子と本郷じゃねえーか

こんな所

体育館裏で告白するなよ！！ゴミ捨て場いけねえーだろ（怒）

つま、様子でも見るとしますか（笑）（ハ↑悪魔・・・。）

女子A「あ。。。あの。。。」

女子B「由香里ガンバー！！」

女子C「ファイト！」

(うわぁ〜1対3かよ！

ってか、あの子。。メツチャてんばってる(笑)

由香里「ほ、本郷様。。。す、好きです！！

その。。。付き合って下さい！！」

(うお——！！！！！！言っただあ！！！！！！)

由香里と言う奴を見守る、女子2人。

本郷は、ちょっと困った顔をしながら。。。

本郷「ごめんね、俺。。今、勉強で頭が一杯で

恋とかは、考えられないんだ。。。」

由香里「そ、そおですかぁ・・・」

ぐすつと涙を流す由香里。

（あゝ女の子泣かせちゃって・・・（汗））

本郷「あ・・・もし、良ければ友達でもいいですか？」

（逃げたあ——！？友達作戦かあゝ）

アイツ

まあゝショックのあまり由香里は。。。）

由香里「え！？良いのですか!？」

（のるのかい!?!）

女子B・女子C「良かったね。由香里!！」

由香里「うん!では、友達としてヨロシクお願いします!！」

頭を深く下げ、3人は、体育館裏を出て行った。

（鳴いたカラスが、もう笑う・・・かあ・・・）

と、その時だ。

彼は、辺りを見回し誰もいない事を確認したのか

本郷「・・・うぜえ！。今年だけで13回目・・・。

人の事、何にも分からないくせに

”好きです”みてえーな事言っなよ・・・。」

と、彼はしゃがみ込み、頭をかいた。

（うん。。そおだよね！君の言う・・・通・・・り？

ちょ！ちょっと待てや——！！？！？

今、何て！？あの本郷が・・・二面性！？

―ガタツ―

（あ、やば！？（汗））

あまりのビックリに手がゴミ箱に当たって音が・・・

本郷「！？・・・誰！？」

立ち上がり、どんどん私が隠れていた木々に近づく本郷。

どう言っ言い訳をすれば良いのか、焦る桃。

彼女がとつた行動

それは・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8110c/>

今日も彼女は不機嫌

2010年12月29日14時32分発行